

令和4年度「学術変革領域研究（B）」新規採択研究領域
に係る研究概要・審査結果の所見

領域番号	22B302	領域略称名	間質リテラシー
研究領域名	間質リテラシー：間質の細胞多様性に基づく疾患メカニズムの統合的理解		
領域代表者名 (所属等)	佐藤 荘 (東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授)		

(応募領域の研究概要)

臓器機能の中心となる部分が実質であり、その周辺にあり実質を支持する部分が間質である。各臓器における実質細胞が機能変容を起こした際には、疾患発症に直結するため、これまでの疾患研究の多くは実質細胞に焦点を当ててきた。一方、疾患発症の際に微小環境の変化を担うのは間質に存在する多様な細胞であり、個々の細胞の機能的重要性も最近解明されつつある。しかし、本領域に参加している全研究者は、実質のみの研究や間質にいる個々の細胞単体の研究では疾患の完全理解には到底つながらないことを各自の研究から痛感している。そこで、間質に存在する多様な細胞のダイナミズムや分子的特徴ならびに細胞間クロストークを解き明かすことで間質の変化を統合的に捉え、そこから実質機能に迫る事こそ、疾患の本質の全貌解明につながる喫緊の最重要課題だと考え、これらを『間質リテラシー』と定義した。

(審査結果の所見)

本研究領域は、複数の臓器と疾患を対象として、間質構成細胞のクロストークを統合的に理解する研究領域であり、それぞれの分野で十分な実績を有する研究者で構成されているため、着実な成果が期待される。すでに研究者間の交流がスタートしており、コンセプト、研究手法にも統一感が見受けられることから、今後は各分野の融合をさらに進め、間質ネットワークの全容解明、新しい研究領域の開拓、それらによる広い波及効果を生み出すことなどが期待される。